



D O N C どんく

発行

三重日仏協会

SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

〒514-0006 津市広明町418

418, Komei-cho Tsu-shi

TEL 059-226-2766

FAX 059-229-0967

N° 62 octobre 2002

SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

2002年度総会 グットマン氏が記念講演

辛らつなフランスの政治漫画の伝統

「日本ももっと政治漫画に力を入れては…」

三重日仏協会2002年度総会は、7月14日津市のプラザ洞津で開催され、事業計画などの各議案が理事会の原案通り承認されました。そのあと、三重大学人文学部専任講師のティエリ・グットマン氏による記念講演と、恒例の「パリ祭」パーティーが賑やかに行われましたが、ここで『政治とユーモア…日仏の政治漫画の比較研究』と題したグットマン氏のご講演の概要を紹介します。

グットマン氏は、政治は一般につまらないものと思われており私も半分は同感だが、政治における理性と感情、そこから出てくる行動、それらの関係には大いに興味があると切り出し、現代のフランスと日本の政治漫画、特に最近の両国の大きな選挙戦にかかわる漫画の特徴について具体例を示しながら説明されました。主な差異としては、まず新聞等における政治漫画の量において圧倒的にフランスの方が多く、お堅いとされる大新聞でも毎日6つくらいの政治漫画が載り、ゴシップ系のクル・カナル・アンシェネ>などでは30%くらいの紙面を諷刺漫画に割いているほどだ。内容的にも、日本は政治家に対する尊敬の度がいくらか高いのか、漫画においてフランスほどあざけりや辛らつさが激しくない。フランス人はとにかく笑いが好きで人をあざけて喜ぶような伝統があり、日常生活でもきつい冗談を平気でやり取りする傾向がある。特に政治家に対して容赦なく毒のある笑いの矛先を向けるのは、国王などの権力者をもギロチンにかけた大革命以来の伝統ではなかろうか。その点、天皇が政治の中心で尊敬の対象であった時代が続いた日本との違いがあるのだろうか。そして結論として、政治漫画はいま日本ではマイナーな仕事で影響力も弱いように見えるが、もっと政治漫画を増やし笑い飛ばすようにすれば政治への関心も親しみも強くなるのではないか、などと述べられました。

(2面に講演資料のフランス政治漫画の例を掲載します)

記念講演の際に配布していただいたフランスと日本の政治漫画の例のなかから、移民排斥などを掲げる極右勢力が進出して世界を驚かせた4～5月のフランス大統領選挙にかかわる作品を二点だけご紹介します。(注は編集部)



『不確実な将来』

4月21日の一回目投票2位で決選投票に進出した「極右」のルペン氏のテレビのアップの顔におびえながら若夫婦、「第2回投票がすんでから子どもをつくりましょうよ」。明日が物騒では安心して子どももつくれないというわけ。(排外的な言動の勇ましい男が人気を得ている日本も他人事ではありませんね。)

(Le Canard Enchaîné 2002.4.24)

『シラクによって日陰から表に引っ張り出されたラファラン』

5月5日、2回目の投票で82%の得票率で大統領に選出されたシラク氏は、辞任した左翼のジョスパン首相に替えてジャン・ピエール・ラファラン氏を新首相に指名しましたが、スーパーマン風のシラクが事務員風のラファランに言っています。「オレのそばには凡人が必要だ…それが君さ!」。なおシラクの胸のSMのマークはスーパーマンに引っかけた<SUPER MENTEUR>「超うそつき」という若者たちがつけたニックネームの頭文字だそうです。

(Le Canard Enchaîné 2002.5.7)



8月30日

<ブリュエルがブレルをうたう>



四日市でシャンソン・コンサート

1967年38歳の若さでこの世を去ったジャック・ブレルのシャンソンばかり20数曲を、彼を深く尊敬するベルナール・ブリュエルが演奏するという当地では珍しいコンサートが、四日市市のムーシケ・ホールで開催され、200人余の聴衆が鑑賞しました。(主催：アリアンス・フランセーズ愛知フランス協会、共催：四日市シャンソンクラブ。三重日仏協会等の後援。)

モーパッサン全集20巻 パリ、ポールオルランドルフ書房発行 1920年…をめぐる珍しい話

大橋 与成

戦後、仏印から、つまり今の北ベトナムのハイフォン港から、僕は4年ぶりでなんとか日本に帰ってきた。しかし僕にはたいした感動もなかった。実家は長岡で空爆をうけ全焼し両親は山村に疎開していた。こんな状況から僕の戦後は始まった。かなりの間僕は働きもせずぶらぶらしていたが、すぐ本題に入ろう。

本をなくしてしまった僕は心の支えを失ったような気がして、本屋に行ってみるのだがまだ新刊などあまり出なくて、むしろ古本屋が大繁盛していた。新潟市内に1軒だけ洋書がたくさん置いてある店があった。古書売る側の人には現金を手にするのに早く都合がとていい。だからあの頃は古本屋に古書売る人が多く、逆に本がないので、古本を買う人もかなりいた。

古町通りの古本屋（書店名は思い出せない）で問題の『モーパッサン全集』20冊を、僕は或るとき偶然発見した。1920年頃のパリで発行されたものだ。もう表紙などの男や女の絵に塗られている色も褪せているものもある。中を一寸開いてみると、挿絵があちこちにある。なかなか味があり読者の心をくすぐり、興味と関心をいだかせるものだった。

モーパッサンの小説は仏文に関心あるものは読んでみたいと思う。それは明治時代から日本の作家志望者の目標のひとつでもあった。二葉亭四迷が「浮雲」を書き、西欧の自然主義の文学を日本にもたらしてから、明治の作家はロシアやフランスの文学を読み、それらの本をもとめていた。

モーパッサン（1850～1893）は、およそ300以上の短編と6つの長編、有名な「女の一生」、「ペラミ」、「ピエールとジャン」……などであるが、生涯の比較的短い間に書いた。

田山花袋が後年に「東京の三十年」という本を書き、花袋が明治14年上京してから約30年の東京の町の変遷と、文士などの群像と交流を描いている。その中に、花袋がいかにモーパッサンに興味があり、読みたくて本を手に入れたかったのが分かる文がある…。ある洋書店でピエールとジャンというモーパッサンの長編を見つけた時は、恋人に世界の果てで逢ったような気がした…。とても高価であったが、すぐ借金して買ったと書いている。

僕の方の話は、ずっと年月のたったある日、その全集の内のある1冊をひきだし、何気なくひらいてみた。すると、最初のところに自筆のペンで次のように書かれていた…。

コートダジュール、ニースにて

1922年3月 Hideo Itoh

これはまさに大正11年、僕の生まれた年だ。そんな時にこの本の所持者、イトウ ヒデオという人は南仏海岸のニースという高級保養地にいたのだ。

これは紀行小説で特別面白い本でもないが、多分モーパッサンがある年の春地中海の岸辺の舟行を試みた時のことを、つれづれなるままに書いたものである。

イトウ氏も同じようなことをやり、思い出の自筆サインその他を書き入れて、長く残して置くつもりだったのでは…。

更に、この本の中まできて驚いたことに、其処にすでにすこし変色した1枚の紙切れがはさんであった。紙切れは滞在先のホテルからの請求書だった。当時のことだから、ただの紙切れにすぎなかったが、大事なものだ。Yシャツのクリーニング代から何かの酒代、色々あるが最後に数ヶ月分の部屋代が全額書かれていた。

これによるとイトウ氏はかなり長期滞在され、上客として信用もされていたらしい。

実はこのイトウ氏なる人物はひょっとして、新潟市に近い沢海というところに住む、昔からの大地主で大邸宅を構えておられる富豪、伊藤文吉ゆかりの人物ではないかと、いまごろ気がついた。しかし、調べてみなくては真偽の程は分からない。

プロフィール

大橋 ^{ともしげ} 与成さん

1922年生まれ。1939年、東京外国語大学フランス語学部入学、42年外務省留学生（アンナン語）として「仏領インドシナ」（現在のベトナム）に留学、44年サイゴン駐留部隊に現役兵として入隊（その辺りの事情は著書『仏領印度支那にさ迷う』（2000年刊）に詳しい）。46年帰国。戦後は英語教師として中・高校で教鞭をとり、クウェート日本人学校の校長も勤められました。四日市市在住、三重日仏協会会員

新企画 午後のフランス語講座にご参加を

「旅に役立つフランス語会話」

毎年春に開催の「入門講座」に続き、今回初めて秋のウィーク・デイの午後にフランス語会話の講座を右記のように開講することになりました。会話学校で講師の経験をもつ運営委員の中川富美子さんに講師をお願いし、とくにフランス旅行のなかで想定されるような場面（例えば空港、駅、ホテル、レストラン、買い物など）にスポットをあてた実践的な会話講座とします。これで、あなたの次のフランス旅行がより中身の濃いものになるでしょう。

10/21より

日 時：10月21日(月)より
12月9日(月) 毎月曜・8回
時 間：午後1時30分～3時
場 所：アスト津・3階 (津市羽所町 津駅前)
国際交流センター ミーティング室
講 師：中川富美子(三重日仏協会運営委員)
講座参加費：会員 8,000円(一般10,000円)
募集人員：10名
*参加ご希望の方は、募集人数が限定されていますので、お早めにお申し込み下さい。
問合せ・申込先 滝沢 059-225-2517 (夜7時以降)
中川 059-230-0950

11/21

ボジョレ・ヌヴォー パーティー

今年はレストラン<アンジェロ>貸切りで

今年も新酒解禁日の11月第3木曜日、みんなで空輸のボジョレ・ヌヴォーを味わい歓談するパーティーを下記のように開催します。お誘い合わせてご参加下さい。

日 時：11月21日(第3木曜日) 午後7時より
場 所：レストラン アンジェロ TEL：059-222-2202
(津市大門10-2 ピッチャーズビル1F センターパレスの裏です)
参加費：5,000円

◆チケットの枚数に限りがありますので、参加ご希望の方は、お早めに申し込み下さい。

問合せ・申込先 滝沢 059-225-2517 (夜7時以降) 長田(ウチャヤマ) 059-226-3312

読書会 次のテキストは『盗まれた手紙』

フランス語の書籍を原文で輪読する集まりが2年前から続けられていますが、この9月から5冊目のテキストに入りました。エドガー・アラン・ポーの作品をボードレルがフランス語に翻訳した有名な推理小説『盗まれた手紙』(La lettre volée)。参加希望者は井土まで。

—— 近着資料から ——

- 熊本日仏協会創立20周年記念誌
昨年創立20周年を迎えた同協会の歩みや盛大な記念行事のもよう、会員のエッセイなどを特集。
(A 4判36ページ)
- 大阪日仏協会会報 20号
年1回発行の豪華な会報。巻末「全国の協会の動き」の記事、今号は三重日仏協会。
(B 5判 106ページ) 若干部数あり
- 自由ヶ丘日仏協会より <月刊ぼんじゅうる> 8月号と9月号 (A 5判45ページ)
東京・自由ヶ丘の地域雑誌
- 在日フランス大使館広報部発行
フランスを知るために <Voici la France>
政治、経済、文化、外交などデータによってフランスを紹介する小冊子。カラー印刷で写真も豊富でわかりやすくできています。(A 5判30ページ)
希望者があれば大使館から取り寄せますので(郵送料のみ)事務局まで。

会員の消息

菅谷 光美さん
ご主人の医院開業のため千葉県佐倉市へ転居
吉田(平野) 真由美さん
結婚されて千葉県市川市へ転居